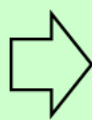


規模拡大・作業効率の合理化を図り、所得向上を目指す ～株式会社 勝部農産～

経営体の概要

就農時 : 平成12年度
 基幹作物 : 水稻、二条大麦、大豆、
 たまねぎ
 経営面積 : 39.2ha (うち作業受託20.0ha)



現 在 : 平成28年度
 基幹作物 : 水稻、二条大麦、大豆、
 そば、あすっこ
 経営面積 : 77.0ha (うち作業受託15.0ha)

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成12年に就農し、本事業により安定的な用水供給が可能となったことを契機に、積極的な規模拡大と大型機械導入による効率化を進めるため平成21年に株式会社を設立。作付体系は、水稻+麦+大豆の2年3作に加え、そば等を作付けするなど多品目に取り組んでいる。また、耕作が困難な農地を農地中間管理事業を活用して集積し、畦畔除去による大区画化を行い、大型農業機械を積極的に活用して低コスト化に努めるなど農業経営の安定化に努めている。

営農改善のポイント

①規模拡大

平成23年頃から作業受託を経営の中心としながら、農地中間管理事業を活用することで耕作困難な農地を借地して農地集積を行い経営規模を拡大している。また、冬期には水稻用の育苗ハウスで県オリジナル野菜「あすっこ」※を生産するなど所得向上を図り、農業経営の安定化に努めている。

※「あすっこ」とは、島根県が、ビタミンAを多く含む「ビタミン菜」と、ビタミンCを多く含む「ブロッコリー」を交配して開発したオリジナル野菜。



②省力化

借地した農地は、畦畔除去をすることで大区画化し、畦畔の草刈りや水管理作業を減らし、大型農業機械を導入することで省力化に努めている。また、水稻では無代かき移植を行うとともに、追肥作業を省くために一発肥料を散布に取り組み、大豆では狭畦密植栽培に取り組み中耕培土を省くなど作業時間の効率化・省力化に努めている。



③単収・品質向上と機械・施設の整備

冬期に鶏糞、くず大豆や籾がら等の有機肥料を施肥することで化学肥料を極力使用せずに土作りをし、色彩選別機を導入するなど水稻の品質向上を図っている。また、低コスト化や高効率化が可能な農業用機械の導入だけでなく、GPSガイダンスシステム、GPSレベラーや水田水位等監視システムを導入するなどICT農業にも取り組んでいる。



事業概要

事業種 : 国営農業用水再編対策事業
 関係市町 : 出雲市
 受益面積 : 3,728ha
 事業期間 : 平成17年～平成28年
 事業目的 : 用水改良
 主要工事 : 用水路の新設・改修49.7km、揚水機場等の改修3ヶ所、汐止堰新設1ヶ所、水管理システムの整備一式 他

位置図 (島根県)



<局問い合わせ先>

中国四国農政局
 農村振興部農村環境課
 電話:086-224-4511
 (内線:2562)

(平成28年度調査時点)